



新春インタビュー

町長に聞く!



CONTENTS

- ② 新春インタビュー 町長に聞く!
- ④ 町からのお知らせ (1)
- ⑤ 自治振興会の紹介
- ⑥ TOPICS&NEWS
各地区での催し
- ⑨ 保健福祉センターだより
- ⑩ 神石高原のいきいき農業
- ⑪ 油木高校ジャーナル/交番だより
- ⑫ 町からのお知らせ (2)
- ⑬ 暮らしのインフォメーション
- ⑭ 図書館だより
- ⑯ バスケットニュース
- ⑰ お誕生・お悔やみ
- ⑱ 今月生まれのお友達



(今月の表紙)
犬瀬から見た神龍湖
今年5月には、満々と水をためた姿がよみがえります。

Q 最初に二〇〇五年を振り返ってどんな一年だったか、漢字一文字で表現してください。

A 「難」 合併して一年、行政的な手法や手続きは、困難であったがある程度統一できたと思います。ただ、旧四町村の歴史、文化、想いなどを超越し「神石高原町」が一体化するという事についてはもう少し時間がかかると思います。そこであえて「難」の字を選びました。

Q 二〇〇六年は、どんな年にしたいか? 漢字一文字で表現してください。

A 「夢」 厳しい時代だからこそ将来に「夢」をもって行政運営に取り組みたいと思い、夢とします。町民の皆様のご協力をお願いします。

Q 町政の運営において、一番気をつかったことは?

A 町民の皆さんの心が、純朴で素直なところ・地域にある豊富な自然資源です。

A いわゆる「一体化」。合併直後ということもあり、旧町村時代のくせ、慣習が見え隠れします。その早い段階での調整が本当の意味での神石高原町を創造すると考えています。

Q 神石高原町の良いところは?

Q 五年後、十年後の神石高原町をどんな町にしたいですか？

A 人と自然が輝く町。地方権が進む中、住民自治をより確実なものにし、住民と行政、議会が協働して町づくりを行い、神石高原町らしさが出せるような町にしたい。「元氣の出る町づくり」を目指したいと思っています。

Q 神石高原町の緊急的な課題は何ですか？

A 行財政改革です。なかでも財政再建です。持続可能な自治体として運営していくためには、財政状況をまず好転させることが最も必要です。また、病院の存続問題も重要です。町民の皆さんと一緒にこの二つの問題にあたっていきたいと思っています。

Q 神石高原町の定住対策の評価と今後の展望は？

A 合併後定住対策の取り組みは一定の成果があったと思います。一部においては、旧町村が行ってきた子育て支援も継続しています。しかし、この助成事業では、定

住の抜本的な対策とは言えません。このため、平成十八年度は、定住対策に取り組みを設置し、将来若者を含め定住者を増やし、人口減少に歯止めが掛けられる検討をしていきたいと考えます。

Q 学校現場の安全対策についてどのようにお考えですか？

A 社会状況が不透明であるためか、子どもたちをねらった犯罪が後を絶たず目を覆うばかりです。社会の宝である子どもたちの安全は、我々大人が守らなければなりません。具体的には、教育委員会で防犯ベルや登下校時の地域での監視など、実行しています。安心して学べる環境をつくることは我々の責務であると考えます。しかし基本的には「知らない人は悪人と思え」的な考え方や風潮には賛成できません。

Q 神石高原町の農業施策の評価と今後の展望は？

A 農村を取り巻く情勢は、国の財政赤字や農協の広域化による指導力の低下などにより先行き不透明感が依然拭えない状況にあります。

す。そのための後継者が極度に不足し地域崩壊まで至るケースも見受けられます。こつゆう厳しい状況の中、なんとが職業としての農業、生活拠点を守るシステムを構築する必要があります。具体的には認定農業者・集落営農・生産法人の育成です。神石高原町にある資源を活かした事業展開を行う農業を推進します。

近い将来農業は、ある意味贅沢な産業になると思います。源流の美味しい水を使い、自分で思うように作った作物を自分で食す。まさしく「〇ハスな時代の産業です。そのときが来るまで、現状を維持していくことが非常に大切だと思っています。

Q 最後に町民のみなさんへメッセージをお願いします。

A 平成十八年度はじまりました。国内的には企業の増収増益により好景気が謳われ、経済危機を脱したかに見えますが、東京一極集中で、地方の景気はまだ厳しいものがあるのが実態です。わが神石高原町では、合併後一年が経過し、きびしい財政状況があるとはい



え、確実に「人と自然が輝く神石高原町」に向けて息づいています。人の生き方としてスローライフ・ローフードと言われるように、これからは神石高原町のような田舎の時代です。きれいな空気・美しい景色・美味しい食べ物。こんなに豊かなものが享受できる神石高原町に我々は住んでいます。この町をみなさんと一緒に「住んでよかったと思える町」にしたいと思っています。この一年間よろしくお願いします。